

# 昭和地域ニュース

No. 51

令和6年(2024年)

1月号

発行 中野区昭和中野区民活動センター運営委員会  
編集 広報部会 昭和地域ニュース編集会議  
〒164-0001 中野区中野 6-16-20  
TEL: 03(3368)8164  
FAX: 03(3368)8168  
E-mail: nakano\_showa@nifty.com  
http://www.nakano-showa.gr.jp/



我が家のアイドル  
るばーと 14歳  
(中野6丁目)  
いつまでも少年の  
心をもつ男の子で  
す。ふわふわのす  
べすべ。  
プライドが高いの  
に甘えん坊です。

## 文園地域物語 ①

文園町会の皆様にお集まりいただき、昭和20、30年代の中野6丁目周辺のお話を伺いました。会場は、参加者の佐々木さんのお店、もみじやま通り沿いのそば屋「やぶ浅」です。

### ■自己紹介

**田中洋子**：昭和23年に文京区から引っ越してきました。その頃は、中野6丁目ではなく文園町と言っていました。桃園第二小学校を中心とした文教地域であるので、文教と桃園の一文字をとって「文園」と名付けられたそうです。その当時は周りには何もなくて、電車しか見えませんでした。  
**菅野(かんの)ミエ子**：生まれた所は昭和通り沿いでしたが、線路沿いの方に引っ越してきて50年くらいになります。

**佐々木孝一**：うちはここに大正からいます。四谷に住んでいた祖父母が、道路拡張で越してきました。父は大正9年生まれで、ここで関東大震災に遭ったそうです。私は昭和27年生まれです。

**徳江キクエ**：私は昭和3年生まれで、ここには昭和24年から住んでいます。結婚して半年くらい京橋にいたんですが、知り合いに紹介してもらってこちらに来ました。昔は周りに何にもなく、家の前には川が流れていて、ご近所のお子さんが笹舟を流していました。きれいな水でした。

**山田恵一**：私は昭和25年にここで生まれ、今も住んでいます。母が徳江さんと友達です。

**田村勇治**：山田のけいちゃんと、幼なじみです。ちょうど1カ月違いの生まれで、旧桃園教会幼稚園、桃園第二小学校、中野三中までずっと一緒。二人とも一人っ子で、兄弟みたいなものです。

### ■「山の上」

**佐々木**：印象に残っているのは、うちの前のもみじやま通りが砂利道だったこと。馬が荷車を引っ張っていくのを見ました。天神の方から川がありましたが、今は暗渠になっています。

**田村**：昭和22、23年頃から線路沿いの所に住んでいて、以前は眺荘(ながめそう)というアパートをやっていました。山の上で眺めが良かったので、そういう名前を付けたそうです。

**田中**：今でも山の上と言っています。

**山田**：本当は山ではなくて、もみじやま通りと同

じくらいのレベルでしたが、鉄道を通すので土砂を持ってきて埋め立て、山になりました。地下鉄東西線が通る計画があり、引き込み線を作るので土盛りをしたんですが、それが中止になり分譲した、と親から聞いたことがあります。  
**田村**：突き当りは、はらっぱでした。川沿いのとても狭い道を通って、小学校に行きました。今、東京工科大学自動車大学校がある辺りがはらっぱでした。

### ■地下鉄東西線開通による変化

**山田**：山の上には中村ボクシングジムがあり、デビューする前の、歌手の橋幸夫さんが通っていました。昭和通り(現早稲田通り)のブロードウェイの手前に、実家の呉服屋さんがありました。ボクシングジムの近くに小さなプールができ、冬は釣り堀をしていました。昭和34年に開通した地下鉄東西線の工事の際の立ち退き料目当てではないか、という噂もありました。

**田中**：うちはほんの少し地下鉄の計画に引っ掛かり、立ち退きました。三鷹に家を買ったんですが、母が戻りたいと言って、戻ってきました。地下鉄東西線が通ったことで、文園町会は変わりました。大きなお屋敷が何軒もあったのに、アパートが多くなりました。

**徳江**：私が越してきたときには、田中さんがまだ小さくて、うちの赤ちゃんのところによく遊びに来ていました。周りには、家が少なかったですね。

### ■さまざまな商店

**山田**：桃二小の前には鈴木堂とニワトリ堂という文房具屋があって、教科書はニワトリ堂でしか買えない。普通の文房具は鈴木堂で買いました。今の床屋さんの所はパン屋さんで、隣はタイ焼き屋。皆、同級生でした。私たちは団塊の世代の一つ下で、子どもが多い世代です。



左から 田村さん、佐々木さん、菅野さん、田中さん、徳江さん、山田さん

**佐々木**：三中は給食がなかったもので、地元や東中野のパン屋さんでパンを買って行きました。昭和地域の少年野球は、山田さんのお母さんが子どもを集めたのが始まりでした。当時はユニフォームがなくて、半ズボンにシャツ1枚。山田さんのお母さんには、可愛がってもらいました。

### ■街灯がない頃

**田中**：当時空き地があり草が茂っていたので、子どもたちが連れ込まれても見えないから草を刈ってほしい、と依頼が来ました。空き地の持ち主に草刈りを依頼したり、町会として見回りを強化しました。

**山田**：街灯もなく本当に真っ暗でした。

**田中**：文園町会と桜山町会の境には、昔は踏切がありました。遮断機がなく事故が多かったので跨線橋ができました。昔は大雪が降ると電車が止まったので、スキーをする人がいましたね。

**山田**：中学では、その踏切を渡るのは禁止でした。東中野の東側の踏切もダメでした。下り坂でカーブなので見えにくくて危険でした。それで私が中学の頃、アンダーパスができました。

**田中**：子どもの頃は滅多に電車が来ないので、線路の向こうのお友達の所へ行く時には、線路を渡ったのを覚えています。

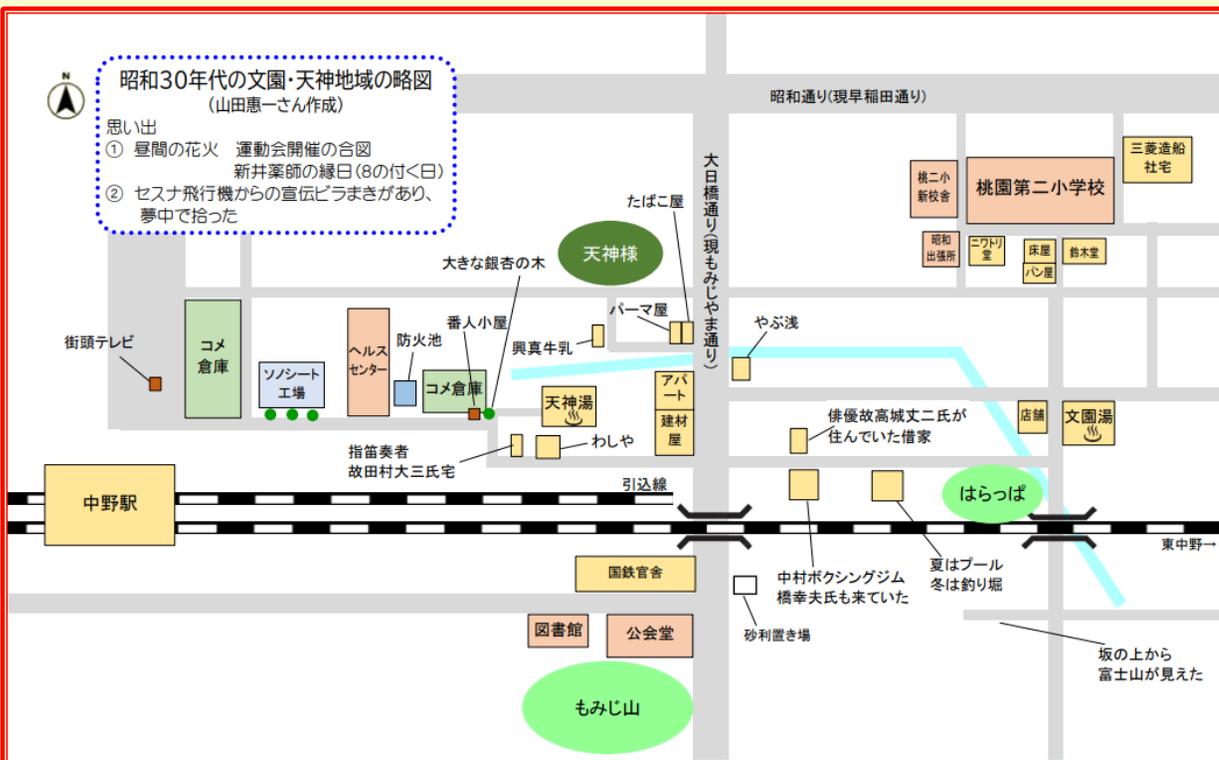
**山田**：昔はZEROホールがなかったから、城山の坂から富士山が良く見えました。きれいでしたね。線路がない頃、児童館の下の道はまっすぐ南側まで続いていたそうです。まだその名残りがあって、国鉄の石積みが残っています。線路を通すために石積みしたんですね。

**田中**：児童館の下には、防空壕のような穴があり、お年寄り二人が住んでいました。夏は涼しく冬は暖かでした。お茶やジュース、おやつをいただきました。児童館の場所は、元は新日鉄の社宅でした。

**山田**：佐々木さんのお父さんは、そば屋をやる前、炭と氷の店をやっていたんです。氷一貫目をうちに持って来て、切って冷蔵庫に入れてくれました。そのうち、そば屋を始めました。昔やってたんだよ、ということでした。

**佐々木**：祖父母が四谷でそば屋をやっていたんだけど、ここに来ていろいろやったあと炭屋がダメになり、新宿でそば屋をやっていた身内に勧められてそば屋を始めたのが、私が小学校3年生の頃でした。

※次号(52号、令和6年5月号)に続きます。



【昭和地域ニュース No.51 は全戸配布しています】